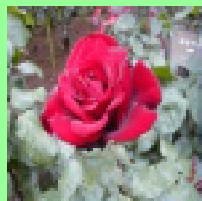


皐月 15 詠

薔薇

たなか踏基



舞ひおさめ

薔薇の野ふいに
香を仕舞う

弧を描き

薔薇崩るるや
黄泉の坂

薔薇散りし

静寂に笑みの
逝く夜かな

人恋ふる

白薔薇闇に
反り返る

白薔薇や

ひらりと撓う
御手の指

昂ぶりて

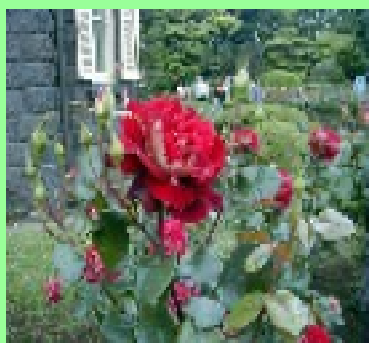
うなじに薔薇の
香をまとい

手折らむと

舞ふ薔薇を追ふ
光の輪

色褪せし

薔薇わびしむや
紅のいろ



サテン地の

ドレスに薔薇の
朱け染まる

薔薇笑みし

仕草に絹の
緑衣かな

性隠し

紅ほのめかす
野薔薇かな

野の薔薇に

耶蘇の蜀台
かざしけり

履き捨てし

主なき靴や
薔薇の棘

臥す薔薇に

猛きタンゴの
通夜の唄

喪服きて

薔薇のかほりに
息こらす



手折らむと

舞ふ薔薇を追ふ光の輪
かけにありてや
咲きまさるもの

色褪せし

薔薇わびしむや紅のいろ
ほろびゆくもの
いと悲しけれ

サテン地の

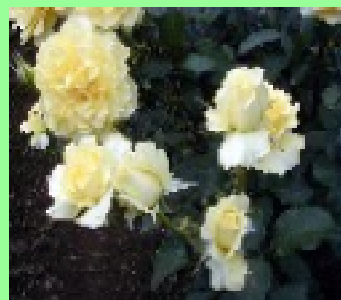
ドレスに薔薇の朱け染まる
もすそ衣ずれ
何を奏でむ

喪服きて

薔薇のかほりに息きこらす
腕(かいな)に眠れ
まほらまの夜に

性隠し

紅ほのめかす野薔薇かな
秘めしほむらに
われはふれなむ



踏基の京都のD句ファンが脇句
をくれました。参考までに